

令和7年度徳島県公立高等学校入学学力検査
集計結果について

徳島県教育委員会教育創生課

令和 7 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（育成型選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（育成型選抜）は、検査Ⅰ（国語、社会、英語）、検査Ⅱ（数学、理科、英語）の２部構成とし、５教科について実施した。

配点は、各教科４０点満点で、学力検査の総点は、２００点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な学力の定着の程度を中心にみることができるよう配慮するとともに、思考力を用いて解く問題も出題した。

５教科総合の平均点は、１００点満点に換算して、５３．８点であり、昨年度より０．３点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

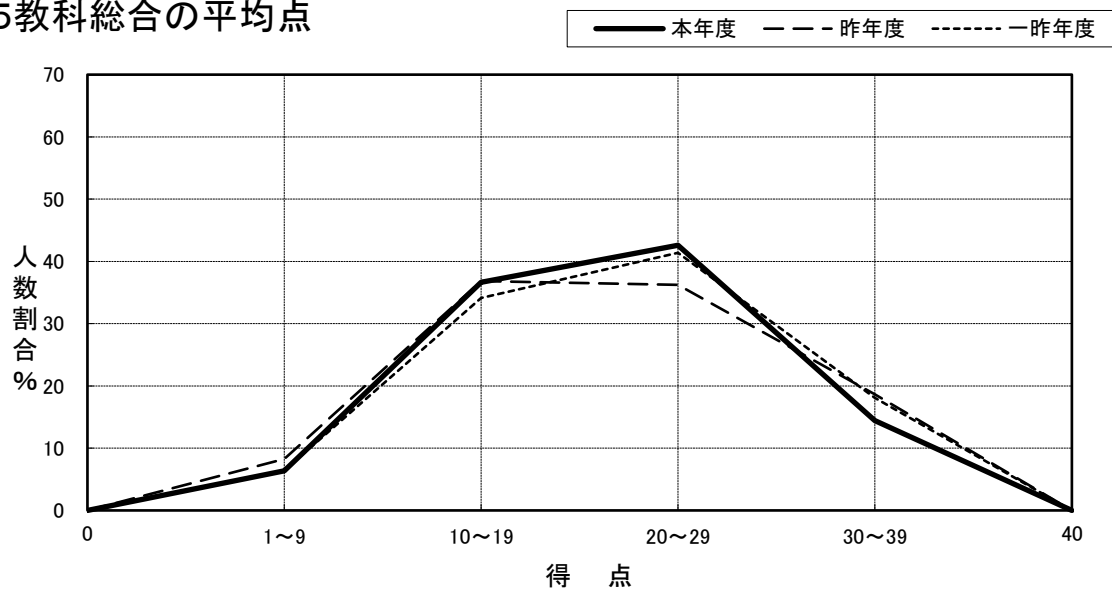
令和 7 年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(育成型選抜)成績表

受検者総数 756名

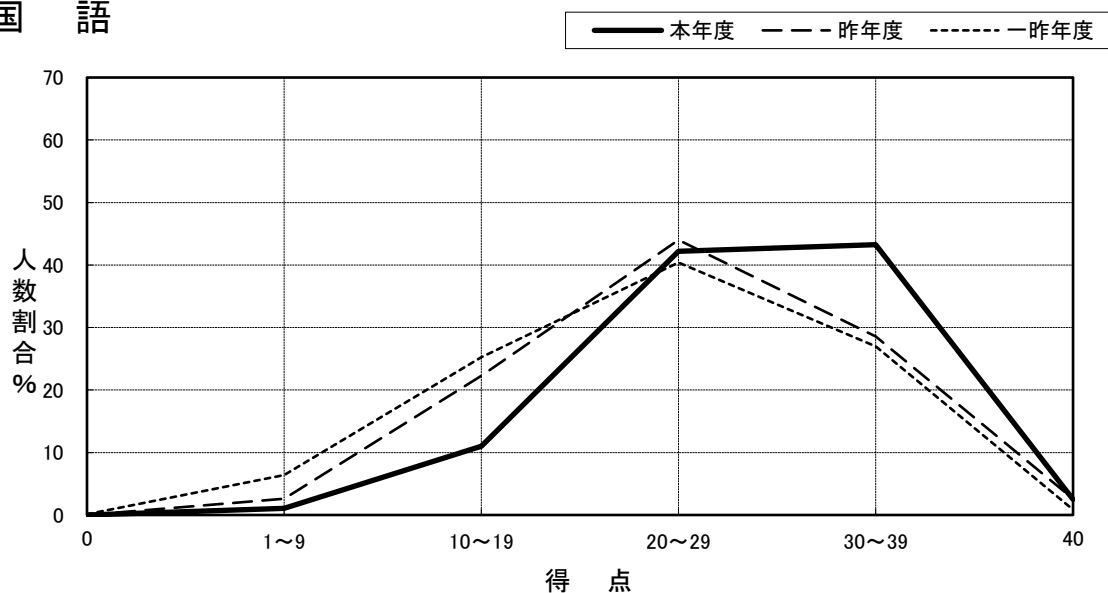
年度 教科	令和 7 年度			令和 6 年度の 平均点 と比較	過去 5 か年の 平均点 と比較	令和 6 年度		過去 5 か年の 平均点
	平均点 (40点満点)	中央値	標準偏差			平均点 (40点満点)	標準偏差	
国 語	28.1	29	7.1	+3.1	+3.6	25.0	7.9	24.5
数 学	16.8	15	9.8	-4.0	-4.7	20.8	10.9	21.5
社 会	21.6	22	8.2	+0.4	+1.4	21.2	9.0	20.2
理 科	21.6	22	8.4	+2.8	+1.6	18.8	9.7	20.0
英 語	19.4	19	10.5	-1.9	-1.1	21.3	11.4	20.5
5教科総合	21.5	21.2	7.4	+0.1	+0.2	21.4	8.3	21.3

年度 教科	平 均 点						
	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	
国 語	23.8	25.2	24.9	23.5	25.0	28.1	70.3%
数 学	19.2	24.4	19.1	24.1	20.8	16.8	42.0%
社 会	18.7	24.3	19.9	16.7	21.2	21.6	54.0%
理 科	19.7	20.3	19.0	22.2	18.8	21.6	54.0%
英 語	21.1	17.2	20.1	22.9	21.3	19.4	48.5%
5教科総合	20.5	22.3	20.6	21.9	21.4	21.5	53.8%

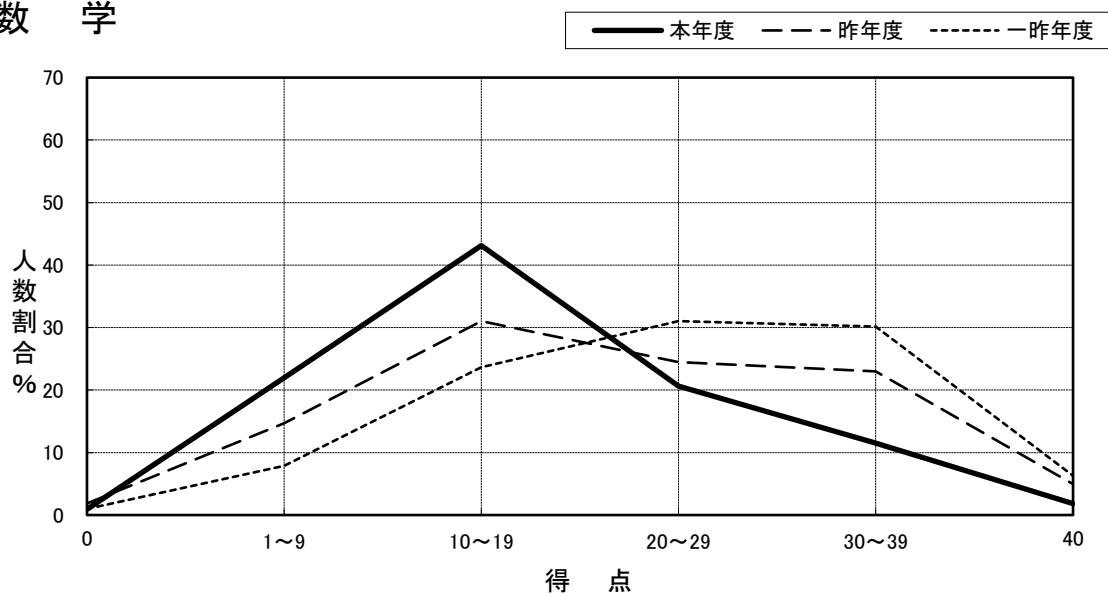
5教科総合の平均点



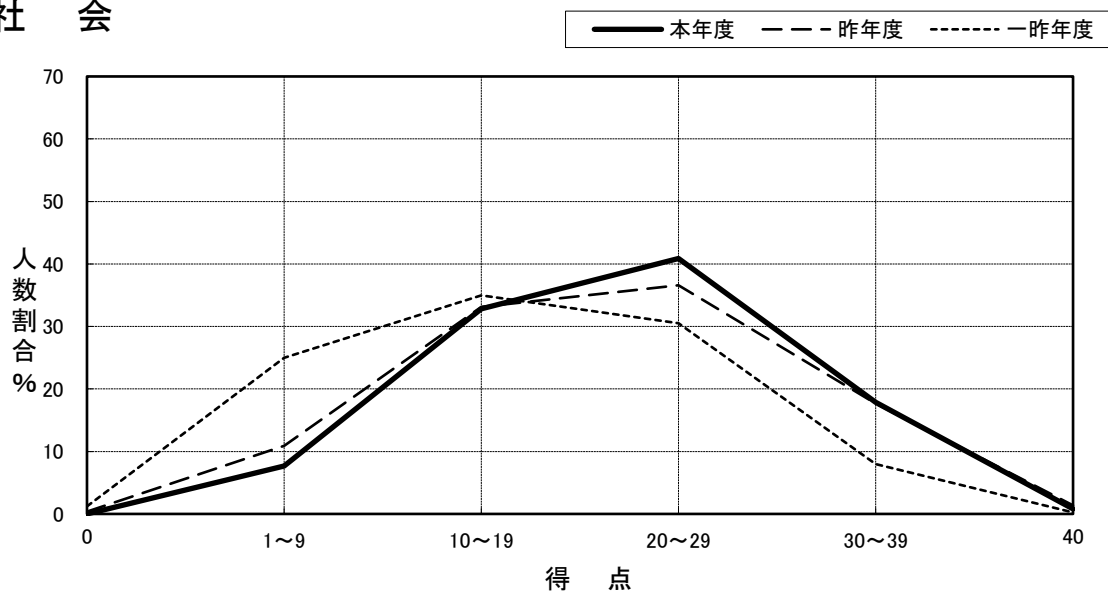
国語



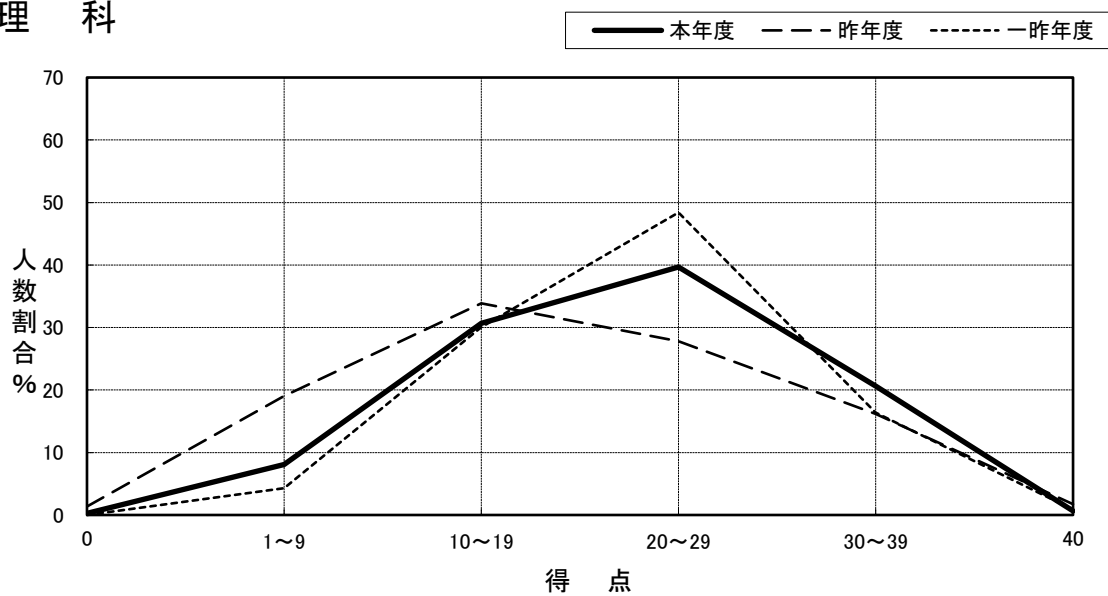
数学



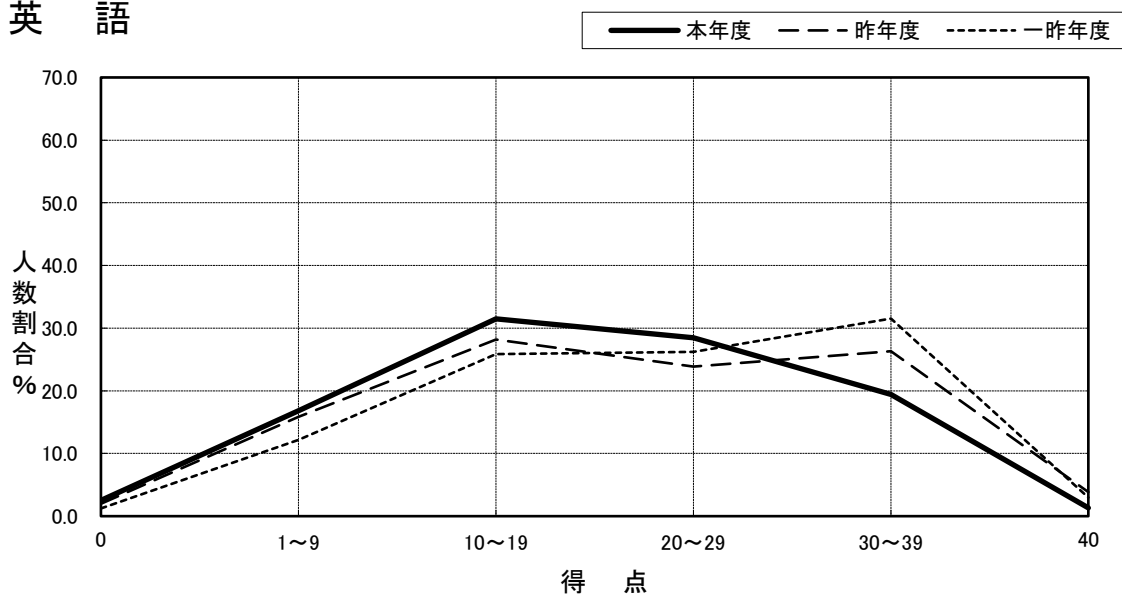
社 会



理 科



英 語



令和 7 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査の成績結果（一般選抜）の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の 5 教科について実施した。

配点は、各教科 1 0 0 点満点で、学力検査の総点は、5 0 0 点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力・判断力・表現力等をみることができる問題となるように配慮した。様々な思考過程により解答を導くことができる問題や多様な表現力をみる問題、日常生活に関連させた事項を題材とした問題、知識・技能を活用して課題を解決する問題も作成した。

5 教科総合の平均点は、1 0 0 点満点に換算して、5 4 . 1 点であり、昨年度より 1 . 9 点低く、過去 5 か年の平均点より 1 . 8 点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

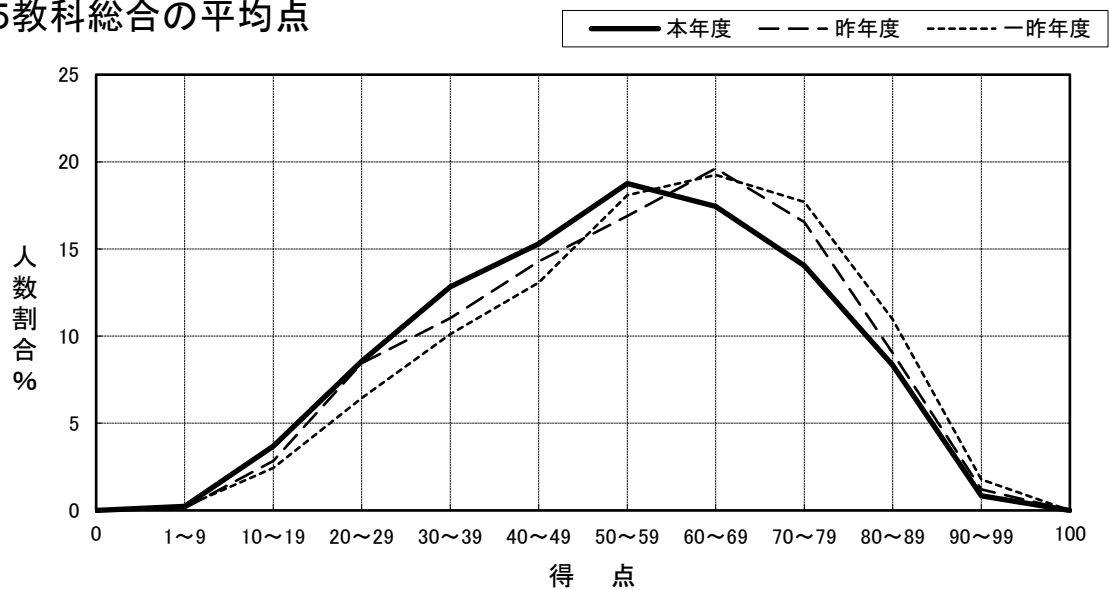
令和 7 年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績表

受検者総数 4186名

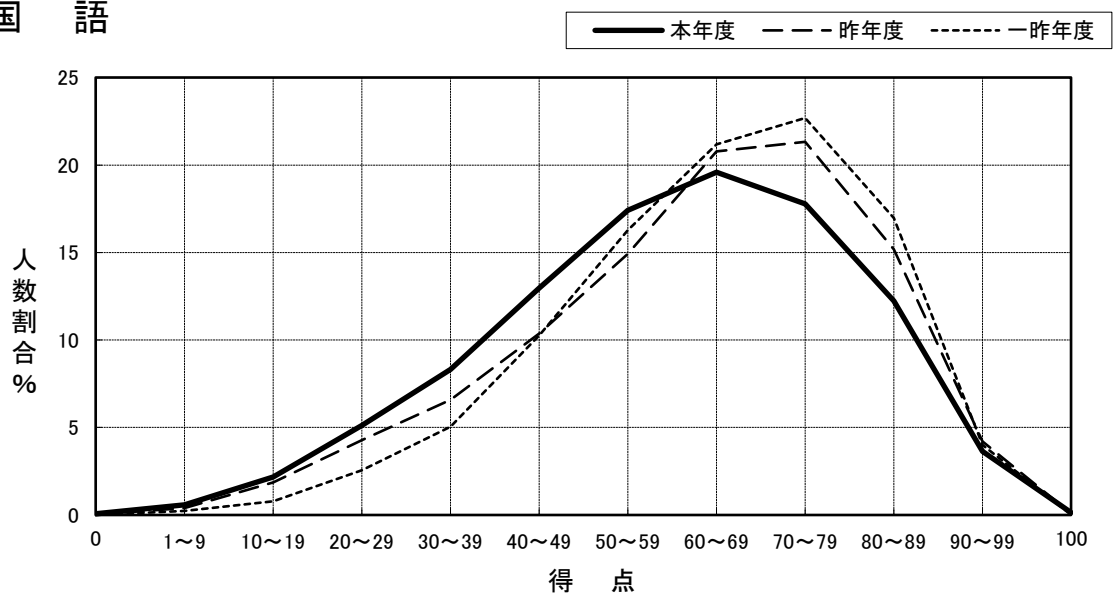
年度 教科	令和 7 年度			令和 6 年度の 平均点 と比較	過去 5 か年の 平均点 と比較	令和 6 年度		過去 5 か年の 平均点
	平均点	中央値	標準偏差			平均点	標準偏差	
国 語	59.5	61	19.2	－3.1	－1.4	62.6	18.8	60.9
数 学	40.9	41	19.1	－3.9	－4.4	44.8	19.6	45.3
社 会	54.7	55	21.8	－9.4	－5.6	64.1	22.3	60.3
理 科	55.5	57	22.4	＋5.6	－1.3	49.9	20.7	56.8
英 語	59.8	61	23.3	＋1.3	＋3.7	58.5	23.5	56.1
5教科総合	54.1	55.2	19.2	－1.9	－1.8	56.0	18.9	55.9

年度 教科	平 均 点					
	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
国 語	57.5	60.8	58.9	64.6	62.6	59.5
数 学	46.0	46.9	42.9	46.0	44.8	40.9
社 会	61.2	57.6	60.2	58.4	64.1	54.7
理 科	60.6	58.0	55.2	60.1	49.9	55.5
英 語	55.8	52.3	53.0	61.0	58.5	59.8
5教科総合	56.3	55.1	54.0	58.1	56.0	54.1

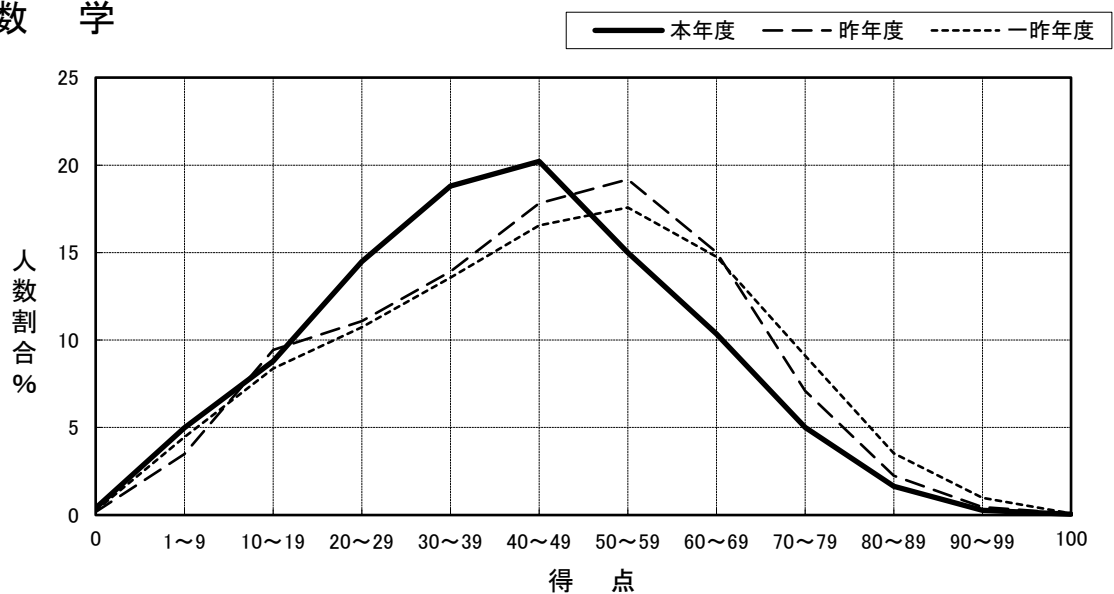
5教科総合の平均点



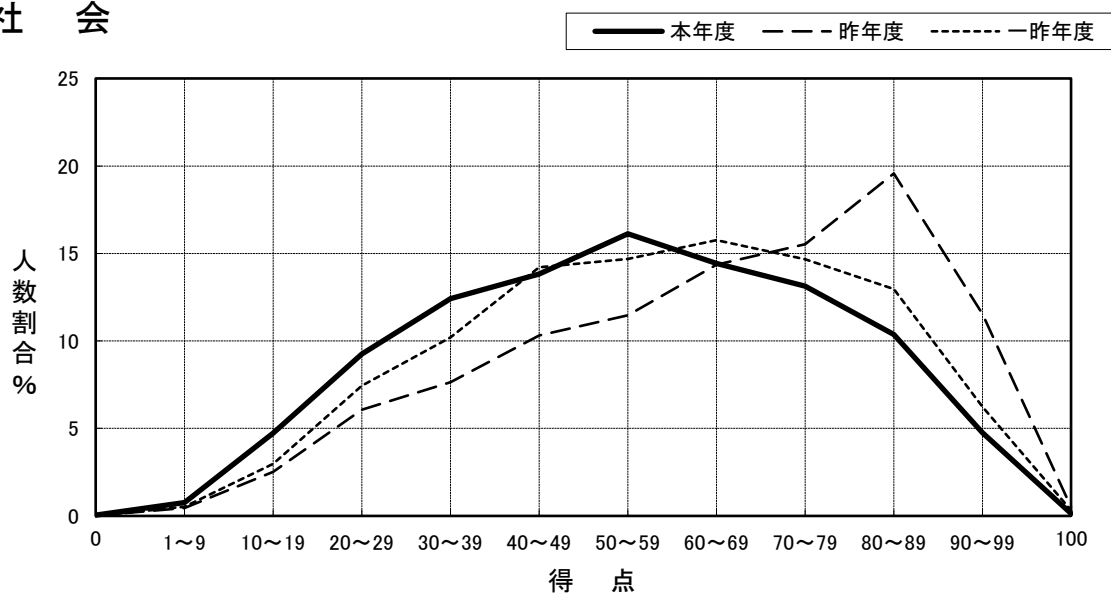
国 語



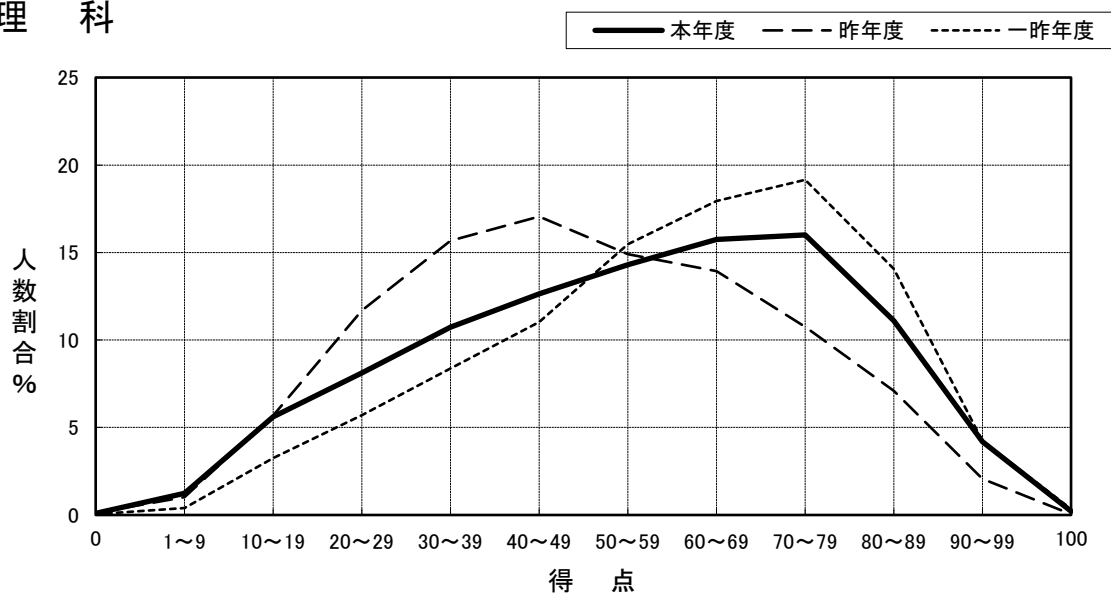
数 学



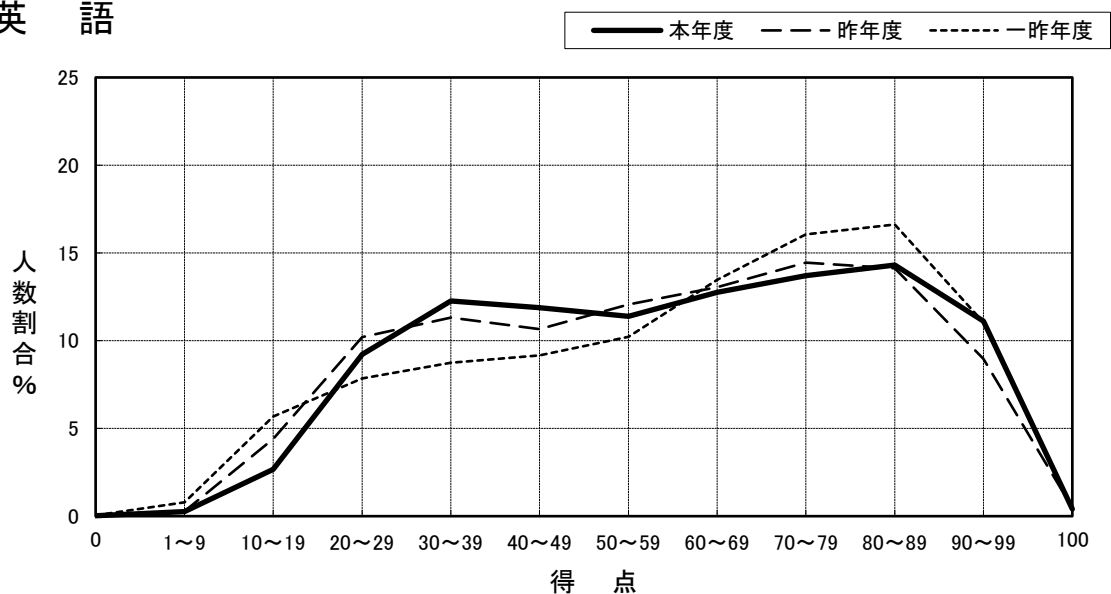
社 会



理 科



英 語



令和 7 年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(育成型選抜)成績結果の概要

教科	成 績 結 果 の 概 要
国語	平均点は 28.1 点（100 点換算 70.3 点）で、過去 5 か年の平均点に比べて 3.6 点高く、昨年度より 3.1 点高い点数であった。 漢字の読み、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、概ね良好であった。一方、漢字の書きや、文法、対義語の問題、古文で作者のものの見方や考え方を捉える問題に課題がみられた。また、文章問題における本文の内容をまとめる問題で誤答が多かった。
数学	平均点は 16.8 点（100 点換算 42.0 点）で、過去 5 か年の平均点に比べて 4.7 点低く、昨年度より 4.0 点低い点数であった。 基礎的・基本的な計算問題は、良好な結果であった。一方、グラフと x 軸との交点を求める問題や、条件を満たす確率を求める問題は、無解答が多く、正答率も極めて低かった。
社会	平均点は 21.6 点（100 点換算 54.0 点）で、過去 5 か年の平均点に比べて 1.4 点高く、昨年度より 0.4 点高い点数であった。 「太平洋ベルト」や人工知能の略称を書くなどの知識を再現する問題や、知識を基に正答を選択する問題は良好な結果であった。一方、「兵農分離」といった歴史的事象の意味を指定語句を用いて記述する問題や、ある 2 都市間の断面図を基に、正しい都市の組み合わせを選択する問題は誤答が多かった。また、菅原道真が派遣の停止を提案した使者の名称を漢字で書く問題や、兵農分離の意味を指定語句を用いて記述する問題は、無解答が多かった。
理科	平均点は 21.6 点（100 点換算 54.0 点）で、過去 5 か年の平均点に比べて 1.6 点高く、昨年度より 2.8 点高い点数であった。 細胞のつくり、節足動物と軟体動物、恒星等、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であり、無解答もほぼなかった。物質の分類で分子からできていないものを選ぶ問題や、電磁誘導を利用したものを選ぶ問題等、知識が定着していないものもみられた。また、思考力を用いて解く問題のうち、大地の歴史の変化を示したできごとの新旧関係を考察する問題は誤答が多かった。
英語	平均点は 19.4 点（100 点換算 48.5 点）で、過去 5 か年の平均点に比べて 1.1 点低く、昨年度より 1.9 点低い点数であった。 文脈から判断して空所に入る表現を選ぶ問題や基本的な語彙を問う問題、対話が成り立つように適切な応答文を選ぶ問題は良好な結果であった。一方、英語の質問に対する応答文を英語で書いたり、対話が成り立つように適語を入れて英文を完成させたりする記述問題では誤答が多く、無解答も見られた。

令和 7 年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績結果の概要

教科	成 績 結 果 の 概 要
国語	平均点は 59.5 点で、過去 5 か年の平均点に比べて 1.4 点低く、昨年度より 3.1 点低い点数であった。 漢字の読み、文法、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題等の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は、概ね良好な結果であった。一方、ふさわしい言葉を選択に沿ってまとめる問題、複数の資料をもとに情報を整理してまとめる問題等、思考力や表現力を必要とする問題においては誤答や無解答が多かった。
数学	平均点は 40.9 点で、過去 5 か年の平均点に比べて 4.4 点低く、昨年度より 3.9 点低い点数であった。 「数と式」、「関数」の各学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は概ね良好な結果であった。一方、日常生活における事象を題材として数学に関連付け、数量の関係を見だし、正確に数え上げたり、方程式をつくる問題は誤答が多かった。図形問題では、作図や証明問題において、誤答や無解答が多かった。
社会	平均点は 54.7 点で、過去 5 か年の平均点に比べて 5.6 点低く、昨年度より 9.4 点低い点数であった。 大化の改新を行った人物や五・一五事件で殺害された首相を選択するなど、知識の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、資料から読み取った内容を関連付けて正答を選ぶ問題や、資料から読み取った内容を関連付けて考察し、指定語句を用いて記述する問題は誤答が多かった。また、モーダルシフト推進の目的について、資料から読み取った内容を記述したり、読み取った内容を関連付けて考察し、記述したりする問題や、田沼意次が進めた、株仲間に関する政策の内容を書く問題は無解答が多かった。
理科	平均点は 55.5 点で、過去 5 か年の平均点に比べて 1.3 点低く、昨年度より 5.6 点高い点数であった。 「種子をつくらない植物」、「露点」、有機物の特徴など、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題や、グラフを作成する問題については良好な結果であった。 一方、クレーンを使った仕事についての問題や、混合物に含まれる物質の質量を求める問題など、説明や実験の内容を理解して考察し、計算する問題は誤答が多かった。
英語	平均点は 59.8 点で、過去 5 か年の平均点に比べて 3.7 点高く、昨年度より 1.3 点高い点数であった。 全体を通して選択問題は無解答がほとんどなかった。短い英語や対話を聞いて答えを選んだり、必要な情報を聞き取ったりするリスニング問題は良好な結果であった。また、文脈から判断し、空所に入る適語を選ぶ問題は良好な結果であった。一方、話し手の質問を聞いて自分の答えを英文 1 文で書くリスニング問題や、文脈から判断し、対話や本文が自然な流れになるように、空所に適切な語句を入れて英文を完成させたり、本文中の質問に答えたりするような記述形式の問題は誤答が多く、無解答率も高かった。

徳島県公立高等学校普通科の通学区域見直しに伴う入学者選抜結果の概要

1 令和7年度入学者選抜における通学区域制

通学区域制については、令和4年度入学者選抜から変更はなかった。

【参考】令和3年度入学者選抜における変更点

- (1) 第3学区（徳島市内）において、
 - ・ 城東高等学校について、募集定員の12%以内であった流入率を廃止し、通学区域を全県一区とした。（城ノ内高等学校は募集停止）
 - ・ 城南、城北及び徳島北高等学校について、募集定員の10%以内であった流入率を12%以内に引き上げた。
 - ・ 徳島市立高等学校については、所管する徳島市教育委員会の意向を踏まえ、募集定員の8%以内の流入率を維持した。
- (2) 第1学区（県南部）において、
学区内総募集定員の15%であった流入率を20%以内に引き上げた。
- (3) 第2学区（県北部～県西部）において、
学区内総募集定員の10%であった流入率を12%以内に引き上げた。

2 結果の概要（一般選抜）

※城東高等学校を全県一区とした令和3年度入試前の3年間と直近3年間の平均比較

- (1) 通学区域外から第3学区の普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）に合格した生徒数

平成30年度から令和2年度まで 68.3人
→ 令和5年度から令和7年度まで 88.3人

- (2) 徳島市内の公立中学校から徳島市外の普通科に合格した生徒数

平成30年度から令和2年度まで 80.3人
→ 令和5年度から令和7年度まで 78.3人

- (3) 第3学区普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）における各学校の学区内外別合格最低点の差の平均点

平成30年度から令和2年度まで 103.7点
→ 令和5年度から令和7年度まで 69.9点

各教科の大問別解答状況の概要と授業改善の視点

国語	【成績結果の概要】 一 漢字、行書、文法等、基礎的な知識に関する問題は、漢字の書きの一部で正答率が低いものの、概ね良好であった。 二 文学的な文章の読解に関する問題については、傍線部の指す内容を文章の中から抜き出す問題の正答率が高く、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる問題等、記述する問題では正答率が低かった。 三 複数の資料をもとに説明的な文章を読解する問題については、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を抜き出す問題の正答率は比較的高いが、一方で、無解答が多いものもあった。また、指示する語句と接続する語句に着目して考える問題の正答率は低かった。 四 古典については、基礎的知識に関する問題は良好であるが、内容を理解して条件に沿って書く問題については、正答率が低かった。 五 資料をもとに作文を書く問題については、昨年度と比べて正答率は低いが、無解答は少なかった。	【授業改善の視点】 一 漢字の読み書き、文法等の基礎的な知識は、日常の言語生活と結び付けた学習により定着を図ることが必要である。 二 登場人物の言動の意味などについて考え、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などに着目して読み、描写をもとに捉える力の育成が必要である。 三 筆者の主張を読み取る力や、複数の資料をもとに情報を整理して理解を深め、記述する力の育成が必要である。言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことがなお一層望まれる。 四 古典に親しむ機会を多くもたせるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れて、登場人物や作者の思いなどを想像する力の育成が望まれる。 五 資料を読んで、情報を整理したり関連付けたりしながら、自分の考えをまとめる機会を多くもたせることが必要である。
数学	【成績結果の概要】 「数と式」「関数」の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は概ね良好な結果であった。 1 箱ひげ図から読み取れることを選ぶ問題や、相似を利用して線分の長さを求める問題の正答率が低かった。 2 与えられた条件から身体活動量を求める問題は誤答や無解答が多かった。 3 日常生活における事象を題材として数学に関連付けた問題であったが、正確に数えあげたり、方程式をつくる問題は誤答が多かった。また、条件にあう作図の問題は誤答や無解答が多かった。 4 四角形が三角形の何倍か求める問題は誤答が多く、条件を満たす直線の傾きを求める問題は誤答や無解答が多かった。 5 三角形の相似を証明する問題や、与えられた立体について点と平面の距離を求める問題は誤答や無解答が多かった。	【授業改善の視点】 1 基礎的な内容に関する本質的な理解や思考力を育成する必要がある。 2 与えられた表などをもとに、必要な値を求めたり、数学的に処理したりする力を育成する指導が必要である。 3 問題文を正確に読み取り、必要な数量の関係を見だし、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。また、全国学力調査やステップアップテストなどを活用し、日常生活と関連した数学の問題などを通し、数学に対する興味・関心を一層高めることも大切である。 4 領域を横断した基礎的・基本的な内容を組み合わせ、問題を解決する思考力の育成が必要である。 5 問題文から状況を読み取り、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。
社会	【成績結果の概要】 1～5 大化の改新を行った人物や五・一五事件で殺害された首相を選択するなど、再現した知識を基に正答を選択する問題は正答率が高かった。一方、資料から読み取った複数の内容を関連付けて正答を選ぶ問題は正答率が低かった。また、田沼意次が進めた、株仲間に関する政策の内容を書く問題は無解答が多かった。 6 「職場体験の内容について、グループごとにまとめ、クラスで発表すること」をテーマとする学習に関わる総合問題においては、サンフランシスコ郊外にある、情報通信技術関連企業が集中している地域の名称を答える問題で良好な結果となった。一方、スマート農業に期待されることについて資料から読み取った内容を関連付けて考察し、指定語句を用いて記述する問題は正答率がやや低かった。また、モーダルシフト推進の目的について複数の資料から読み取った内容を記述したり、読み取った内容を関連付けて考察し、記述したりする問題は無解答率が高かった。	【授業改善の視点】 1～5 基礎的・基本的な知識の習得が不十分な生徒に対しては、教科書の重要語句をしっかりと理解させることが必要である。また、社会的事象について多面的・多角的に考え表現する力や、資料から情報を正確に読み取り考察する力など、様々な角度から思考力・判断力・表現力等の育成を図ることが重要である。そのためには、資料の読み取り、思考、表現の過程を重視した授業づくりが求められる。 6 各分野で学習した成果を関連付け、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、その結果を表現できる総合的な力の育成を図ることが重要である。そのためには、日頃から、現代社会の諸課題に関連する新聞などの資料を適切に活用したり、単元や分野をこえて知識を相互に関連付け、課題を解決する学習指導を展開したりする必要がある。
理科	【成績結果の概要】 1 基礎的・基本的な内容に関する問題の正答率が高いものが多かった。 2 基本的な内容に関する問題の正答率が高かったが、デンプンの分子とブドウ糖の分子の大きさを比べる問題の正答率はやや低かった。 3 雲のでき方を調べる実験の操作や、実験の目的についての問題の正答率はやや低かった。 4 仕事の原理についての問題の正答率が高かったが、クレーンを使った仕事の量を求める問題の正答率は低かった。 5 化学反応式を書く問題やグラフをかく問題の正答率が高かったが、実験の結果から考察し、原子の質量の比や、混合物に含まれる物質の質量を計算して求める問題の正答率は低かった。	【授業改善の視点】 1 観察・実験を通じて、基礎的・基本的な内容を、生活に結びつけた知識・技能として定着させることが大切である。 2 基本的な内容を深く理解させるとともに、実験の目的や操作の意図を考えられるようにすることが大切である。 3 実験の目的や意味を理解させたうえで、何を明らかにするのかを意識させながら実験を行うことが大切である。 4 内容を身の回りの生活とつなげながら、深く理解できるようにすることが大切である。 5 実験から得られた結果を基礎的・基本的な内容と結びつけて考えられるようにし、求められていることが何かを理解したうえで、考察できるようにすることが大切である。
英語	【成績結果の概要】 1～3 選択問題は全般的に良好な結果であったが、まとまった分量の英語を聞いてその要点を捉える問題や、質問を聞いて自分の答えを英文1文で書く問題では、正答率が低く、無解答も多かった。 4 全般的に良好な結果であった。 5 文脈から判断し、登場人物の対話が自然なやり取りになるように、英文を完成させる問題では、正答率が低く、無解答が多かった。 6 本文中から抜き出した文を正しいところに入れる問題では誤答が目立った。質問に対する答えになるように、自分の意見等を書く自由英作文の問題では多様な意見が見られた一方、無解答が多かった。 7 疑問詞を使った英語の質問に対する応答文を英文1文で書く問題では誤答が目立った。また、英文の概要を捉えてキーワードを抜き出す問題や内容と合う英文を選ぶ問題は、正答率が低かった。	【授業改善の視点】 1～3 日常的な話題や社会的な話題に関する対話や説明など、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を捉える力を育成する言語活動を取り入れることが望まれる。 4 日常的な話題について、対話の流れを捉えるとともに、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を育てる言語活動の工夫が望まれる。 5 相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、会話を継続する言語活動を行う必要がある。 6 コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、自分の意見や考えを既習事項を活用して伝え合う言語活動を繰り返し行う必要がある。 7 まとまりのある初見の英文を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設けるとともに、話の概要を捉えたり、書き手が伝えようとしている要点を把握したりする力を育成する指導が求められる。